

令和2年 労働災害発生状況の概要【社会福祉施設】

1 死亡災害発生状況（図1）

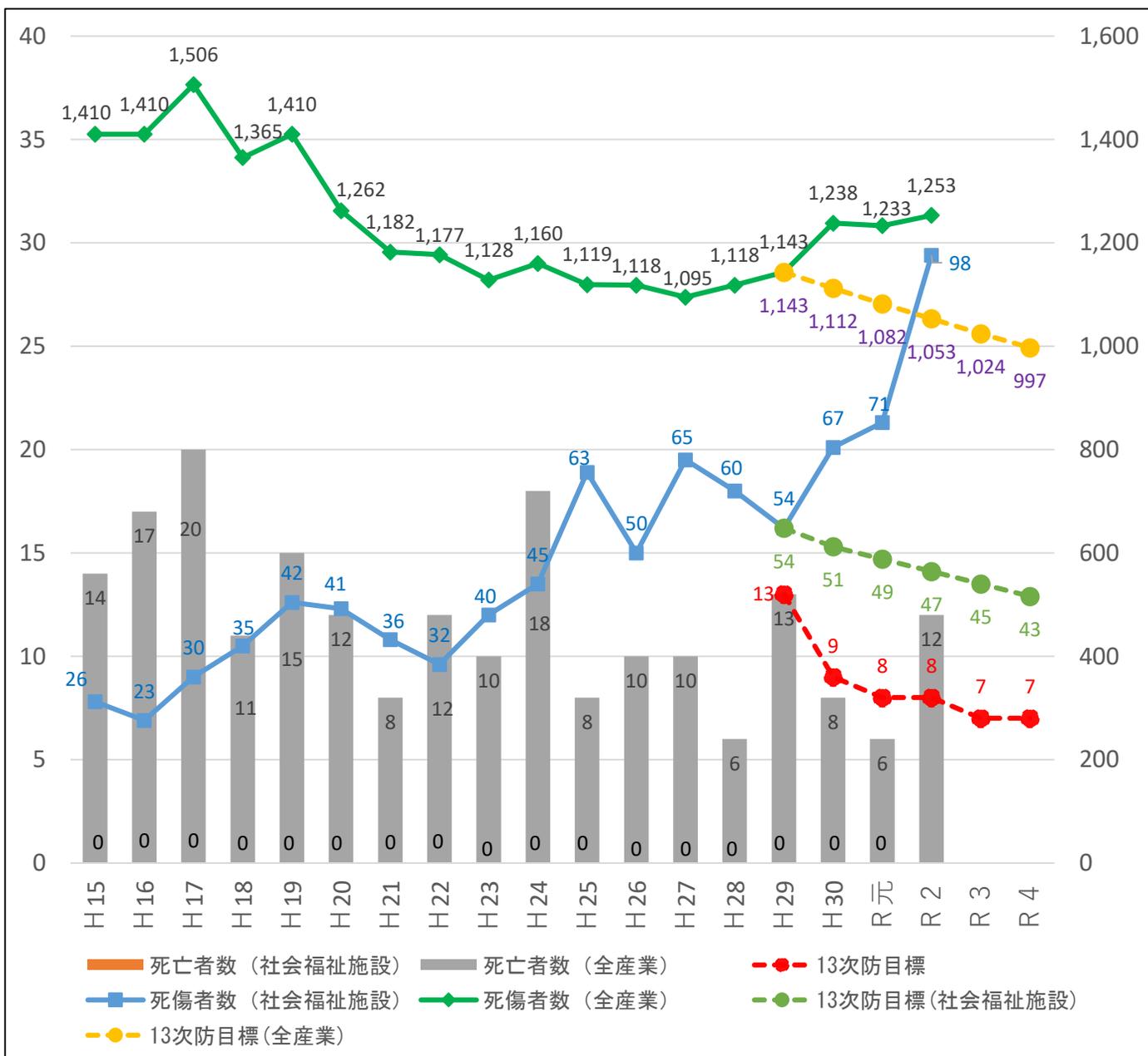
社会福祉施設の労働者について、死亡災害は発生していない。

2 死傷災害発生状況（図1）

社会福祉施設の死傷者数（休業4日以上）は、3年連続で増加しており、令和2年は著しく増加している。

令和2年の死傷者数は98人で、令和元年と比較すると27人(38.0%)増加し、過去最多となった。

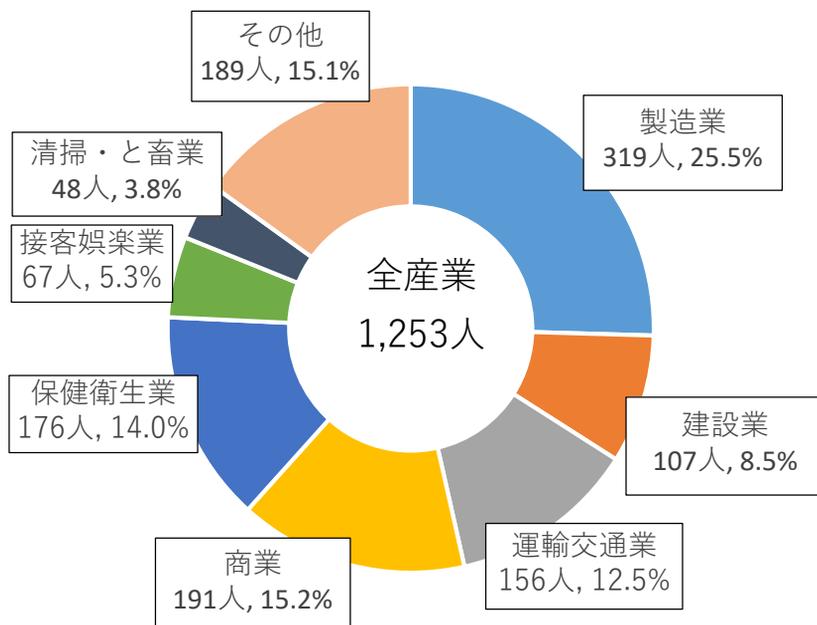
また、第13次労働災害防止計画の令和元年の目標値（47人）と比べると+51人（+108.5%）となっており、労働災害の減少に向けた取組が重要である。



3 業種別【大分類】の災害発生状況（図2）

保健衛生業が全産業に占める割合は、14.0%（176人）となっており、その内、社会福祉施設は98人（全産業の7.8%）を占めている。

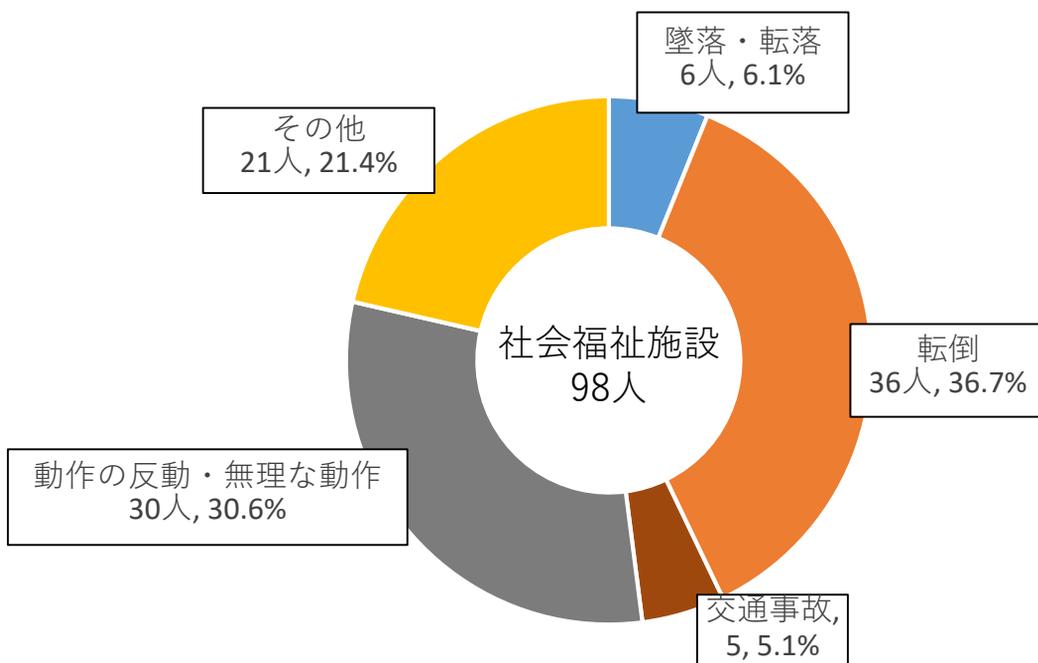
図2 業種別の発生割合



4 事故の型別の災害発生状況（図3）

社会福祉施設（98人）では、「転倒」が最も多く、全体の36.7%（36人）を占めている。次いで、「動作の反動・無理な動作」が30人（30.6%）となっており、この2つの型で、全体の67.3%（66人）を占めている。

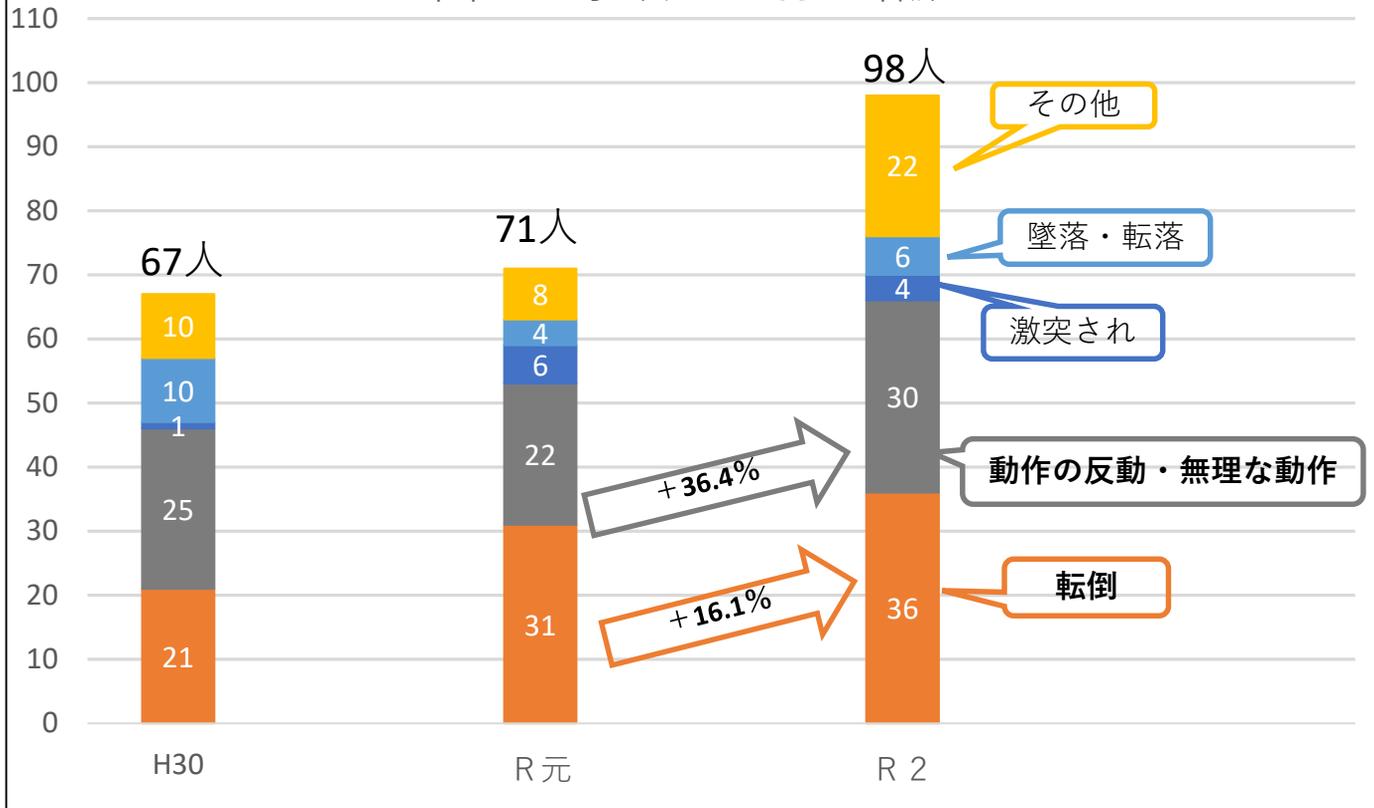
図3 事故の型別の災害発生状況



令和元年と比較すると、「動作の反動・無理な動作」は+8人（+36.4%）、「転倒」は+5人（+16.1%）増加している。

（図4）

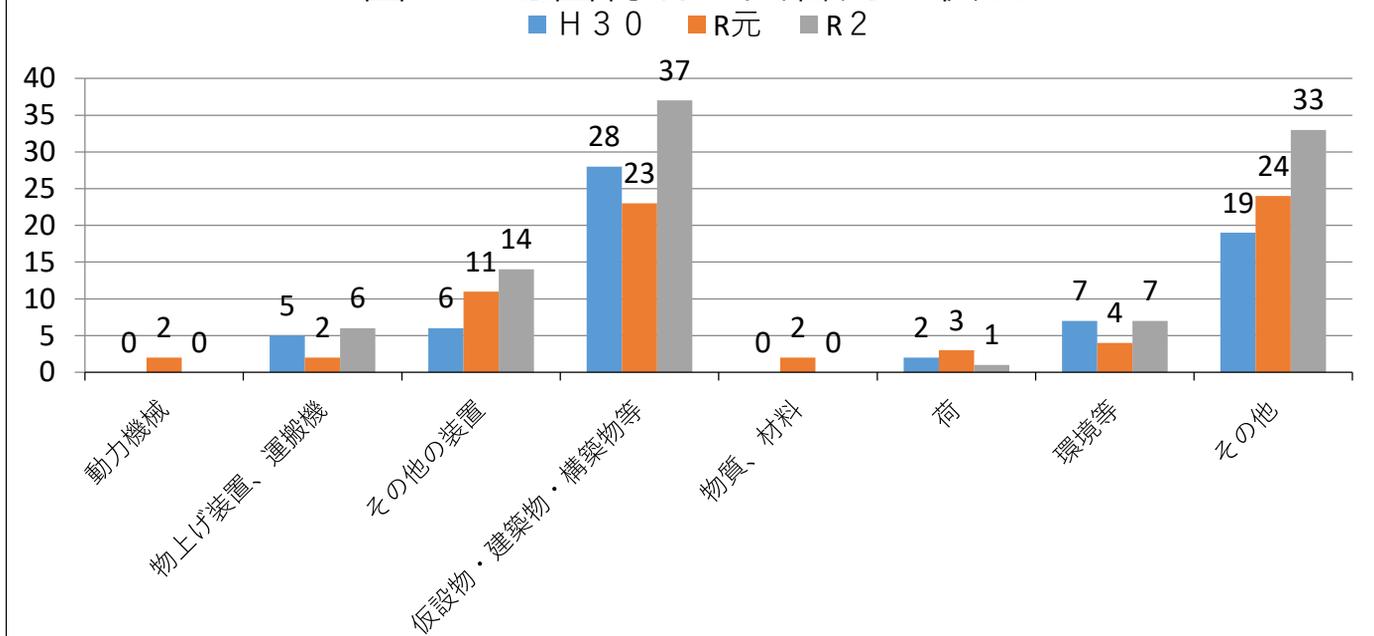
図4 事故の型別の増減



5 起因物別の災害発生状況（図5）

「仮設物・建築物・構築物等」が37人（37.8%）、「その他」が33人（33.7%）で、この2つの起因物で全体の71.4%を占めている。

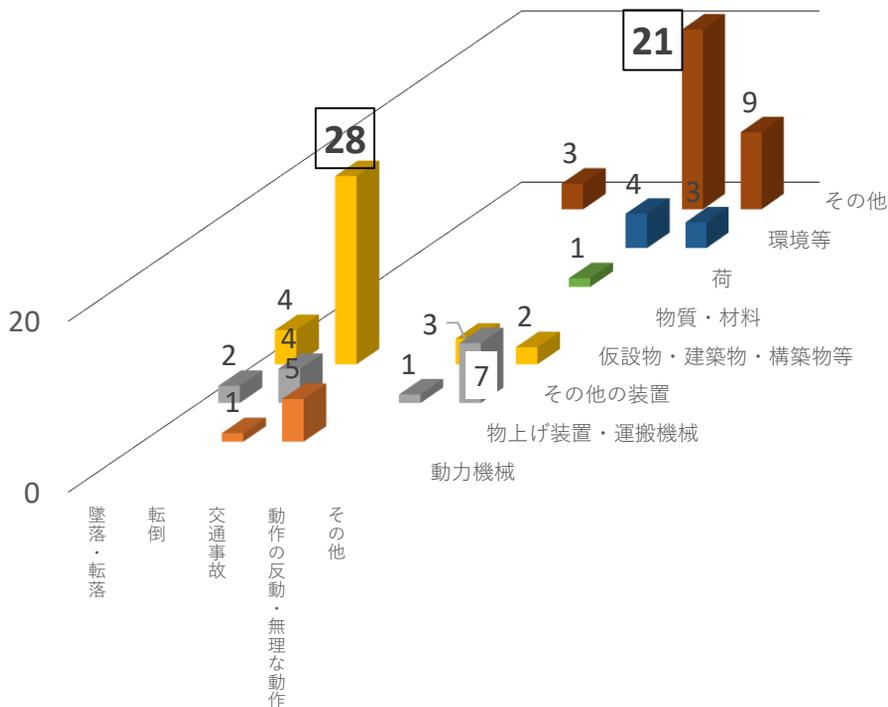
図5 起因物別の災害発生状況



6 事故の型別・起因物別の災害発生状況（図6）

「仮設物・建築物・構築物等（通路、作業床など）での転倒」が28人（28.6%）が最も多く、次いで「動作の反動・無理な動作（腰痛など）」が21人（21.4%）となっている。

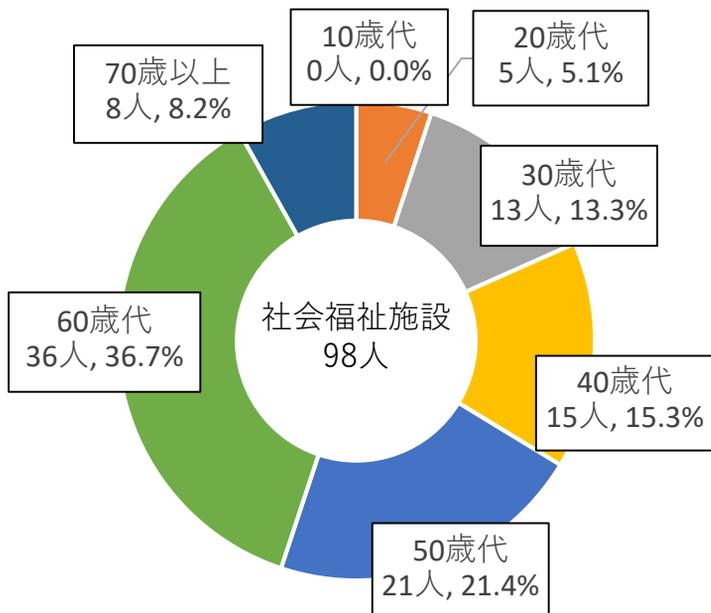
図6 事故の型別・起因物別の災害発生状況



7 年齢別の災害発生状況（図7）

全産業（平均）と比べると、50歳以上の高年齢労働者の割合が高く、全体の6割以上が50歳以上の被災者である。特に、60歳以上で44人（44.9%）を占めている。

図7 年齢別



参考) 全産業の年齢別

